

【原 著】

教職情報提供サービス「岡大教職ナビ」における
成果と課題

佐藤 大介 山根 文男 高塚 成信 加賀 勝

Information Provision Service about Teacher Profession called “Okadai Kyoshoku Navi.”:
Survey Results and Issues

Daisuke SATOH , Fumio YAMANE , Shigenobu TAKATSUKA , Masaru KAGA

2013

岡山大学教師教育開発センター紀要 第3号 別冊

Reprinted from Bulletin of Center for Teacher Education
and Development, Okayama University, Vol.3, March 2013

原 著

教職情報提供サービス「岡大教職ナビ」における成果と課題

佐藤 大介^{*1} 山根 文男^{*2} 高塚 成信^{*3} 加賀 勝^{*4}

岡山大学教師教育開発センターでは、教職情報提供サービス「岡大教職ナビ」の提供を平成23年11月より開始した。岡大教職ナビでは、NetCommonsを活用して教職課程・教務関連情報やボランティア情報、各種イベント情報や教員・講師等募集情報、教員採用試験関連情報等をウェブサイトやメールを通して随時提供している。そこで開始より1年間の経過を機に、利用者を対象としサービスの向上と改善を目的としたアンケート調査を実施した。その結果、多くの利用者が当サービスの必要性を感じながらも、有用性については実感できないことが判明した。その理由としては、個々のニーズに応じた情報提供がなされていない現状が浮き彫りとなった。そこで当センターとして利用方法の周知徹底と、情報の分類、配信方法の改善を検討し、更なるサービス向上に向けて対応する必要がある。

キーワード：教職情報提供サービス, 岡大教職ナビ, NetCommons

※1 佐藤 大介 (岡山大学教師教育開発センター)

※2 山根 文男 (岡山大学教師教育開発センター)

※3 高塚 成信 (岡山大学大学院教育学研究科)

※4 加賀 勝 (岡山大学大学院教育学研究科・岡山大学教師教育開発センター)

I. はじめに

岡山大学教師教育開発センター(以下、「当センター」)では平成23年9月に当センター公式ウェブサイト(<http://cted.okayama-u.ac.jp/>)に、国立情報学研究所が次世代情報共有基盤システムとして開発したContents Management System (CMS: コンテンツ管理システム)「NetCommons」を導入し、インターネットを活用した積極的な教職関連情報の発信共有を開始した(佐藤等, 2012)。その中でも、とりわけ本学の学部生・大学院生(教職課程を履修している学生が中心)を対象とした教職情報提供サービスが「岡大教職ナビ」である。このサービスは平成23年11月より情報提供を開始しており、1年間が経過する平成24年10月～11月にかけて、当サービスの向上と改善を目的としてアンケート調査を実施した。本論では、これまでの「岡大教職ナビ」の取組状況について説明した上で、アンケート調査の結果をもとに、本取組の成果と課題について考察する。

II. 「岡大教職ナビ」について

1. サービス提供の背景

本学では教職に関する様々な情報が内外より提供されている。こうした情報は、学内掲示板や大学院

教育学研究科教員対象の一斉送信メール等で学生への周知が図られていた。しかしながら、教員採用試験や講師募集、ボランティア活動依頼の情報や、学内で実施される教員採用試験説明会の開催案内など、教職課程履修学生にとって有益な情報であるにも関わらず、教育学部以外では、学内の掲示板で掲示しているのみであり、「全学的に」十分周知されているとはいえない状態であった。こうした問題点を改善するため、直接学生個人に対してアクセス限定ウェブサイトおよびメール配信を活用した情報提供が可能なシステムとして、NetCommonsのパッケージに含まれている「日誌モジュール」を活用することとした。

サービスの提供開始にあたっては事前に学生等へのニーズ調査などは実施せず、以前から本学で掲示板等により告知していた情報をまずは提供することから取り組みを始めた。サービス開始に伴い、案内らし(図1)を作成し、各種教職関連ガイダンスや学生指導、教職関連科目授業やゼミ等で関係学生に配布し、また学内掲示板(電光掲示板を含む)でポスターを掲示するなどし学生に対する周知を図った。学生に対しては、入学時にすべての学生・大学院生に提供される岡大Gmailを活用して教職課程履修学生全員にメールにて当サービス開始の案内を行った。

表1 岡大教職ナビ【カテゴリ・月別】情報提供状況（単位：件数）

カテゴリ	2011/		2012/									総 計		
	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9		10	11
教職課程・教務関連情報	1						3							4 (1%)
ボランティア情報						8	2	10	6	1	4	5	3	39 (12%)
教育委員会・学校園等開催イベント情報	1		2	1		1		1						6 (2%)
学内教職関連イベント情報			1			2	1	2				2	2	10 (3%)
教員・講師等募集情報	13	5	19	8	9	2	9	9	6	8		3	3	94 (28%)
教員採用試験関連情報	3	4	3	6	11	6	11	3	3	6	32	43	25	156 (47%)
その他	1		1	1		1	2			3	1	3	5	18 (5%)
カテゴリ指定なし		3		2	2									7 (2%)
総 計	19	12	26	18	22	20	28	25	18	15	37	56	38	334 (100%)

(平成24年12月1日現在)

2. システムの設定と構成

NetCommonsの「日誌モジュール」は、活動日誌やブログ等を作成することができ、ユーザー（権限の設定によっては対象の絞り込みも可能）に対しては、投稿内容をメールで即時に通知することができる。また、ブログにはTwitter・Facebookアイコンを表示させることができ、アイコンをクリックすることで、NetCommons上の各投稿のタイトルと固定リンクをTwitter・Facebookそれぞれに別途投稿することができる。当センターではこのモジュールを活用し、ウェブサイト上とメール配信の2種類での情報提供が可能となり、その他にも当センター公式Twitter (http://twitter.com/#/okayama_unicted)でもすべての更新情報をツイートし、Twitterユーザーに対してはフォローしてもらうことで最新の新着情報を配信することができるようになっている。

この「岡大教職ナビ」ページは当センターウェブサイトの会員専用ページ「CTEDポータル」内に設置している。学生は入学時に割り当てられたシステムIDとパスワードを利用して、CTEDポータルにログインすることができる。岡大教職ナビには大きく分けて2種類のページがある。1つは日誌モジュールを設置している「教職掲示板」ページであり、オンライン上で様々な教職情報を確認することができる。もう一方はカレンダーモジュールを設置している「教職カレンダー」ページであり、教職に関する様々なスケジュール・予定を確認することができるようになっている。NetCommonsでは携帯電話およびスマートフォン等のモバイル向けに最適化されたサイトが自動で生成されるため、パソコンだけではなく、携帯通信情報端末からのアクセス・閲覧が可能である。

この「岡大教職ナビ」ページには、本学で教職課程を履修している学生のほか当センターや教員養成に関係する教職員がユーザーとして登録されている。初期設定としてメール配信はすべての教職課程履修学生の岡大Gmail宛に配信されるようになっている。学生はCTEDポータルにログインすることで配信先のメールアドレスを任意のメールアドレスに変更したり、必要に応じて配信を停止することができる。

3. これまでの情報提供実績

平成23年11月7日より情報提供を開始した「岡大教職ナビ」は、配信時に情報の種類によって7つのカテゴリに分類し提供している。開始から平成24年11月30日までの提供状況(表1)を分析すると、「教員採用試験関連情報」47%と全体の約半数を占めており、続いて「教員・講師等募集情報」28%と、就



図1 岡大教職ナビ案内ちらし

表2 アンケート回答件数

所 属	UG1		UG2		UG3		UG4		専	PG1	PG2	卒	教		職		総 計
	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	
文学部	21	8		1	4	7		2									43
教育学部	10	2	8	4	14	2	17	3					2	4(3)	1	2(2)	69 (5)
養護教諭特別別科									5(2)								5 (2)
特別支援教育特別専攻科								1									1
法学部		1															1
経済学部	1	1															2
理学部	4	7	1	1		4	2	2				1					22
工学部	2							2									4
環境理工学部	1	2	1	1													5
農学部		2	1														3
マッチングプログラムコース			1			1											2
教育学研究科									8	1							9
教師教育開発センター													2(1)	2(2)			4 (3)
総 計	39	23	12	7	18	14	19	9	6(2)	8	1	1	2	6(4)	3(2)	2(2)	170 (10)
	62		19		32		28		6(2)	8	1	1	2	6(4)	5(4)		

(UG=学部、PG=大学院、専=専攻科・別科在籍、卒=卒業生・修了生、教=教員、職=職員)

※括弧内の数字は、全体に含まれる教職課程履修歴のない回答件数を指す。

職関係、すなわち学部3年生～4年生、大学院生向けの情報提供が全体の75%であることが分かる。なお、表1に含まれる「その他」の項目には、事務的な連絡であり、「指定なし」のカテゴリはすべてが分類の未設定が原因によるもので、就職関係の情報が7件中6件含まれていた。

Ⅲ. アンケート調査について

1. 調査目的と方法

今回のアンケート調査では、岡山大学に在籍するすべての学生および教職員（教職課程の履修歴の有無は問わない）を対象に、岡大教職ナビの運用について、利用者のニーズや動向を把握することで当サービスの改善・向上するための資料収集を主な目的とした。平成24年10月1日（月）～平成24年11月30日（金）を調査期間とし、当センターウェブサイト上での調査回答方法とした（NetCommonsの登録フォームモジュールを活用）。調査項目としては、「回答者に関する内容（5問）」、「岡大教職ナビサービス全般に関する内容（6問）」、「岡大教職ナビの利用状況に関する内容（6問）」の3種類を設け多肢選択方式（単一回答法および複数回答法）および「自由記述（1問）」で設定した。調査への回答依頼については、当

センターウェブサイト、岡大教職ナビ、また本学の学内教職員専用ページを活用し回答協力依頼を行った。

2. 有効回答件数について

今回の調査期間中に回答があったのは172件であったが、所属と学年の整合性が取れなかった2件を除くすべての回答170件を有効回答とし分析を行った。オンライン上での入力のため一定の入力制限を行っており、所属・学年の整合以外の点については、筆者の判断により無効としなかった。この170件はすべて、調査項目結果から本学関係者であることが分かる（表2）。ただし、インターネット上での調査であるため、調査対象者をウェブサイト上に明記しているものの、母集団を正確に特定できていないことを予め断っておく。

表3 岡大 Gmail 利用頻度と転送機能利用状況（単位：件数）

Gmail 利用頻度	メール転送機能 利用している	機能は知っているが 利用していない	機能を知らない	無回答	総 計
日常的に利用している	33 (19.3%)	19 (11.3%)	4 (2.4%)	1 (0.6%)	57 (33.6%)
時々利用している	67 (39.8%)	12 (6.9%)	4 (2.5%)	0 (0.0%)	83 (49.2%)
ほとんど利用していない	14 (8.2%)	8 (4.6%)	3 (1.6%)	2 (1.2%)	27 (15.6%)
岡大 Gmail を知らない	0 (0.0%)	1 (0.5%)	1 (0.5%)	0 (0.0%)	2 (1.1%)
無回答	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	1 (0.6%)
総 計	114 (67.2%)	40 (23.3%)	12 (7.1%)	4 (2.3%)	170 (100%)

3. 調査結果

①回答者に関する内容

(1) 情報通信機器の利用状況

回答者が岡大教職ナビにアクセスするために使用する情報通信機器として、パソコン（デスクトップ型・ノート型）、タブレット（Android, iOS）、スマートフォン（Android, iPhone）、携帯電話（スマートフォンを除く）のどの端末を利用しているかを調査した。本項目は回答の複数選択を可とした。得られた回答では情報通信機器のいずれも持っていない者はいなかった。

まずパソコンについては、全体のうちデスクトップ型 36名 (21.2%)、ノート型 151名 (88.8%) が所有しており、現役学生に限定すると 148名 (94.9%) がいずれか、または両方のパソコンを所有しており、8名 (5.1%) の学生はパソコンを所有していないことが分かった。タブレットについては、全体で 7名 (4.1%) が所有していた。スマートフォン・携帯電話については、Android 58名 (34.1%)、iPhone 31名 (18.2%)、携帯電話 75名 (44.1%)、どちらも持っていない者が 9名 (5.3%) であった。どちらも持っていないと回答した 9名は、すべてパソコンを所有していた。

すべての回答の内、岡大教職ナビへのアクセス・閲覧に利用しているのは複数機器との併用を含めると、パソコン 82名 (48.2%)、タブレット 2名 (1.2%)、スマートフォン（Android, iPhone）62名 (36.5%)、携帯電話 47名 (27.6%)、無回答 20名 (11.8%) であった。また、複数の機器を利用しているのは、パソコン・スマートフォンまたは携帯電話 41名 (24.1%)、タブレットとスマートフォン 2名 (1.1%) となっているのに対して、パソコンのみ 41名 (24.1%)、スマートフォンのみ 36名 (21.1%)、携帯電話のみ 30名 (17.6%) となっており、過半数以上が 1 種類の機器

からのみアクセスする傾向が強いことが分かった。

(2) 本学全学情報サービスの利用状況

本学情報統括センターが中心となって様々な全学情報サービスをすべての学生および教職員に対して提供している。例えば、すべての本学利用者に対して、全学情報サービスを利用するための統合認証システムや岡大 Gmail の提供、学内無線 LAN スポットなど、大学生活において必要となる多様な情報通信サービスを提供している。当センターウェブサイトにおいても、利用者の岡大教職ナビにおけるユーザビリティ向上を目指して、統合認証システムと岡大 Gmail の 2 つの全学情報サービスを活用している。

まず統合認証システムでは、個人識別のためにユニークなランダム英数字で構成されたシステム ID (変更不可) と、個人が任意の英数字に設定した岡大 ID (変更可) がある。当センターウェブサイトのログインで使用できるのは、LDAP 認証が可能なシステム ID を用いたログインのみであり、岡大 ID でのログインは現時点では対応できていない。しかし、ほとんどの全学情報サービスにおいて岡大 ID を活用している利用者にとって、システム ID も常日頃からアカウントとして意識しているかについて調査を行った。その結果、覚えているものとして「システム ID・岡大 ID 両方」が 94名 (55.2%)、「システム ID のみ」が 10名 (5.9%)、「岡大 ID のみ」が 54名 (32.1%) であり、約 4 割が当センターウェブサイトに必要なシステム ID を覚えていないことが分かった。

次に、岡大 Gmail はすべての学生に本学公式のメールアドレスとして使用できるよう配布されており、フィルタリングやメール転送、POP3 や IMAP 機能も使用することができるようになっている。岡大教職ナビでも情報配信メール先として岡大 Gmail を活用している。そこで、岡大 Gmail の利用状況について

表4-1 利用者種別情報カテゴリース (単位: 件数)

カテゴリ	利用者種											総計
	UG1	UG 2	UG 3	UG 4	専	PG1	PG2	卒	教	職		
教職課程・教務関連情報	51	15	24	16	3	6	1	0	5	3	124	
教育委員会・学校園等開催イベント情報	10	3	16	12	3	6	1	0	5	4	60	
学内教職関連イベント情報	26	9	21	13	3	5	0	0	5	4	86	
教員・講師等募集情報	21	8	13	20	5	1	1	0	3	2	74	
教員採用試験関連情報	26	12	26	22	5	1	1	1	5	3	102	
その他	1	0	1	1	0	1	0	0	1	0	5	

※略式は表2のとおり

表4-2 利用者所属別情報カテゴリース (単位: 件数)

カテゴリ	利用者所属												総計	
	文	教	養	特	法	経	理	工	環	農	MP	教研教セ		
教職課程・教務関連情報	40	38	2	1	1	2	19	3	5	3	1	7	2	124
教育委員会・学校園等開催イベント情報	5	32	3	0	0	1	7	0	1	0	1	7	3	60
学内教職関連イベント情報	19	38	3	0	0	1	9	2	2	2	1	5	4	86
教員・講師等募集情報	16	38	5	0	1	1	6	2	1	0	1	2	1	74
教員採用試験関連情報	21	55	5	0	1	1	10	2	2	0	1	2	2	102
その他	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5

※略式および所属は表2のとおり

て、特に利用頻度と利用頻度に応じたメール転送設定状況を調査した(表3)。この結果、岡大Gmailを日常的または時々利用している人数が140名(82.4%)となっており、また、Gmailを利用していないが転送設定によってメールを確認している人数を含めると154名(90.6%)とほとんどの利用者はメール配信したものを何らかの形で確認できる状態であることが分かった。

②岡大教職ナビサービス全般に関する内容

岡大教職ナビにはオンライン上のCTEDポータル内にある教職掲示板や教職カレンダー、メール配信システムがあるが、それらについてどの程度周知・理解がなされているかを調査した。

まず岡大教職ナビサービスを知っているかどうか回答してもらった。その結果、「知っている」と回答したのが、162名(95.2%)であったが、そのうち利用しているのは113名(全体の66.7%)に留まっていた。情報の確認方法としては、ウェブサイト上で閲覧する方法と配信メールを確認する方法があるが、この2つの方法については、ウェブサイトでの閲覧については、「知っている」が110名(64.7%)であるが、「利用していない」「知らない」を合わせると117名(68.8%)とブラウザを活用しての情報閲覧は

あまり行われていないことが分かった。一方メール配信については、「知っている」が149名(87.6%)と高く、また、「利用していない」「知らない」の合計も31名(18.2%)であったことから、多くの情報はメールで確認をしていることが推測できる。ただし、この結果については、本調査を実施するにあたり、岡大教職ナビでの回答協力依頼をしている点や、岡大Gmail宛の情報配信を強制的に初期設定としている点等が影響しているものと考えられる。

また、ウェブサイト上で提供している教職カレンダーサービスについては、存在自体を「知らない」が124名(73.2%)と大きく、「利用している」と答えたのは、わずか10名(5.6%)のみであった。任意のメールアドレスへの配信設定や配信停止設定が可能であることについては、「知っている」が55名(32.6%)、「知っているが、方法が分からない」が37名(21.7%)、「知らない」が78名(45.7%)であり、これらの結果から、メール配信設定について分からない利用者が半数を超えていた。この2つの結果から、オンライン上での閲覧についての周知が不十分であり、利用者はメールを中心とした情報提供を受けていることが分かった。

続いて、岡大教職ナビを通して提供する情報として利用者にとって必要な内容が何であるかをカテゴ

表5-1 提供情報の有用性と確認状況（単位：件数）

確認状況	有用性		あまり役立っていないが、必要性は感じている	役立っていないし、必要性も感じない	無回答	総計
	役立っている					
配信されるすべての情報を確認している	8		13	2	2	25 (15.0%)
関心のある情報のみ確認している	20		47	10	5	82 (51.1%)
メールは受信しているが、ほとんど情報を確認していない	4		24	14	0	42 (26.3%)
まったく情報を確認していない	0		4	3	3	10 (5.9%)
無回答	1		1	1	0	3 (1.7%)
総計	33(20.4%)		89 (55.2%)	30 (18.6%)	10 (5.8%)	162 (100%)

表5-2 利用者種別の有用性と確認状況（単位：件数）

有用性	確認状況	利用者種別									
		UG1	UG2	UG3	UG4	専	PG1	PG2	卒	教	職
役立っている あまり役立っていないが、必要性は感じている 役立っていないし、必要性も感じない 無回答	配信されるすべての情報を確認している	10	3	7	6	0	1	0	0	3	3
	関心のある情報のみ確認している	33	8	21	14	4	6	1	1	1	0
	メールは受信しているが、ほとんど情報を確認していない	13	6	3	6	2	0	0	0	0	0
	まったく情報を確認していない	1	0	1	1	0	1	0	0	4	2
無回答	配信されるすべての情報を確認している	5	2	8	5	1	0	0	0	2	2
	関心のある情報のみ確認している	32	4	18	14	4	4	1	1	2	2
	メールは受信しているが、ほとんど情報を確認していない	16	9	6	7	1	2	0	0	1	0
	まったく情報を確認していない	3	1	0	1	0	2	0	0	2	1
	無回答	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0

※略式は表2のとおり

りの複数選択式で調査した（表4-1, 表4-2）。全体では、「教職課程・教務関連情報」124名（72.9%）, 「教員採用試験関連情報」102名（60.0%）, 「学内教職関連イベント情報」86名（50.6%）の3カテゴリが過半数を超えるニーズがあった。また、各カテゴリにおいて利用者種別・所属別総数をもとに割合を算出すると、「教職課程・教務関連情報」は卒業生・修了生を除くすべての利用者種別・利用者所属別に共通して高いニーズがあった。さらに教育学部（専攻科・別科を含む）およびマッチングプログラムコースを除いては、すべて70%を超えるニーズがあり、本カテゴリ情報の必要性が高いことが分かる。「学内教職関連イベント情報」は学部3年生（64.8%）, 大学院1年生（62.5%）, 教職員（69.2%）のニーズが高く、「教育委員会・学校園等開催イベント情報」は、教育学研究科（78.8%）, 大学院1年生（76.3%）, 教職員（77.8%）のニーズが高い。また、「教員・講師等募集情報」は利用者種別では学部4年生（71.7%）, 専攻科・別科生（84.9%）, 大学院2年生（100%）とニーズが高く、反対に、学部1年生（34.1%）, 学部2年生（42.2%）, 学部3年生（39.6%）, 大学院1年生（10.5%）は低い割合となっていた。利用者種別においては、文学部（37.2%）, 理学部（27.3%）, 環境理工学部（20.0%）,

教育学研究科（22.2%）は全体平均より低くなっている。「教員採用試験関連情報」は、学年が進むにつれてニーズが増しており、学部1年生（41.9%）, 学部2年生（63.6%）, 学部3年生（81.4%）, 学部4年生（78.6%）, 専攻科・別科生（84.9%）, 大学院1年生（10.5%）, 大学院2年生（100%）となっている。この項目について大学院1年生（89.5%）が特にニーズを感じていないのは、学部所属時の受験経験などから教員採用試験について一定の理解がなされていることなどが考えられる。

なお、「その他」の記述としては、ボランティア依頼情報や不登校児童・生徒の居場所事業に関する情報提供を求める意見があった。

③岡大教職ナビの利用状況に関する内容

岡大教職ナビの利用状況に関する項目については、現在利用中の回答者のみ対象とした。その結果、本項目すべて無回答であった8名を除く162名を有効回答として分析を行った。なお、3. ②で利用しているのは113名とあったが、162名はすべてサービスを知っている者であり、積極的利用（113名）・消極的利用（49名）の両者を含んでいると考えられる。

表5-3 新着情報の確認方法（単位：件数）

確認方法	UG 1	UG 2	UG 3	UG 4	専	PG1	PG2	卒	教	職	総計
教師教育開発センターホームページ	2	1	2	0	0	0	0	0	4	0	9 (5.6%)
パソコンへの配信メール	27	8	10	14	2	6	1	0	5	4	77 (47.5%)
携帯電話への配信メール	34	12	29	19	5	0	0	1	1	0	101 (62.3%)
Twitterでのツイート	1	1	2	0	0	0	0	0	1	0	5 (3.0%)
大学教員から	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1 (0.6%)
友人・知人から	2	1	2	0	0	1	0	0	0	0	6 (3.7%)
教務窓口にある掲示物	1	4	5	0	0	1	0	0	0	0	11 (6.8%)

※略式は表2のとおり

(1) 提供情報の有用性と確認状況

岡大教職ナビで提供している情報が利用者にとって有用であるか、また確認状況との関係について調査を行った(表5-1, 表5-2,)。その結果、配信しているすべての情報を確認し有用だと感じているのは8名(4.9%)のみであり、また、有用性が高いのは全体のうち33名(20.4%)であった。最も多い「必要性は感じており、関心のある情報のみ確認している」は47名(29.0%)と約3分の1となっており、情報をあまり確認していない利用者も含めると89名(55.2%)が岡大教職ナビの必要性を感じていた。利用者種別では、役立っていると回答しているのは、職員が3名(60.0%)であるのに対し、学生においては「役立っている」と回答しているのは、27名(18.2%)にとどまっている。また、学生のうち情報を取捨選択し確認しているのは、学部2年生(9名, 23.5%)を除いては、すべて半数を超えていた。

また、新着情報の確認方法として、どのような媒体を使用しているか調査した(表5-3)。その結果、配信メールによる確認の割合が高く、パソコンまたは携帯電話のいずれかで確認しているのは、148名(91.4%)であり、ほとんどの利用者がメールによる情報確認を行っていることが分かる。メールを使用していない利用者14名のうち無回答を除く4名はすべて、「教師教育開発センターホームページ」を活用していた。

(2) 提供情報の内容量と頻度

提供情報1件あたりの文字数(題名を除く)の平均は596.1文字(全角・半角の区別なし、スペース・記号を含む)であり、これまで提供したものは、最多文字数が1,896文字(2011年11月7日提供「岡山大学学生のための教職情報ナビ「岡大教職ナビ」のご案内」)、最少文字数が179文字(2011年

9月24日提供「ボランティア依頼情報」)であった。分量に差があるのは、一般公開しているウェブページでも同様の情報を提供する場合は、そのページに遷移し詳細確認できるよう、URLを通知する形式を取っているためであり、その場合は必然的に分量が少なくなっている。それに対し、会員限定の情報に対しては、すべての情報が教職掲示板で提供される形式となっているため、情報の全文すべてを掲載することとなり、分量が多くなる傾向がある。また、ウェブサイト上の掲示板にPDFファイル等をアップロードし、閲覧してもらうことは可能であるが、メール配信時には、このファイルは添付されず、アップロードしたファイルを利用者が閲覧するためにはCTEDポータルにログインする必要がある。このため、ファイルに記載している内容と同様の内容を再掲する形式となっている。こうした点で1件当たりの情報量について調査すると、121名(74.7%)が十分、7名(4.3%)が不十分と回答しており、また16名(9.9%)が添付ファイルにある内容を重複して記載する必要はないと回答している。ただし、この16名のうち11名はウェブサイトでの閲覧を「利用していない」または「知らない」と回答しており、設問中の添付ファイルの中身について十分な理解ができていない可能性も考えられる。

また、岡大教職ナビの情報提供件数は表1のとおりであり、これをさらに細分化してみると、情報提供を行った日(154日)の1日当たりの提供頻度は2.2件であり、最多が9件/日(1日, 0.6%)、最少で1件/日(65日, 19.5%)であった。また、1日当たり4件以上提供した日は全体で24日(7.2%)であった。この岡大教職ナビはすべてメールで配信されているため、こうした情報提供の頻度を利用者はどのように感じているかについて調査を行った。その結果、新着情報がある度に随時配信(現在の設定)を希望

する回答者は 56 名 (34.6%) であり、ダイジェスト版の配信を希望する回答者が 89 名 (54.9%) であり、そのうち頻度として 1 週間に 1 回が 33 名 (37.1%)、1 日に 1 回が 56 名 (62.9%) であった。またメール配信自体が不要と回答したのは 8 名 (4.9%) いた。

IV. 成果と課題の考察

本アンケート調査の結果から、「岡大教職ナビ」サービスの成果と課題について、「利用者」と「情報提供の内容と方法」の 2 観点から述べる。

1. 利用者について

「岡大教職ナビ」へのアクセスへは、多くの回答者はパソコンまたはスマートフォン・携帯電話を用いており、新着情報の確認は配信メールが媒体の中心となっていることが分かった。このことはサービス提供をするためにこれらすべての機器の閲覧利用が可能であり、投稿内容のメール配信機能を持つ NetCommons を活用したことは適切であった。また、メールに関しては、岡大 Gmail 宛を初期設定として配信しているが、多くの利用者が岡大 Gmail または Gmail からのメール転送機能を活用しており、メール配信したものを確認することができることは、ウェブサイトだけではなくメール配信による情報提供も有効であることが分かった。

しかしながら、ウェブサイト上では掲示板に書かれた情報の他、詳細な添付ファイルや教職カレンダーを提供したり、任意にメール配信設定を変更できるが、オンライン閲覧や設定変更のための操作方法については周知が不十分であり、今後の課題であることが分かった。また、本学では学生・教職員共にシステム ID ではなく、岡大 ID を中心に利用していることから、本学情報統括センターと調整・協議の上、Shibboleth 認証が可能なシステムの構築が必要である。平成 23 年 11 月 30 日現在最新版である NetCommons 2.4.0.0 では、Shibboleth へは未対応であるため、独自のカスタマイズが必要となる点は大きな課題である。

2. 情報提供の内容と方法について

「岡大教職ナビ」サービスについて、多くの回答者が必要性を感じていることは、サービスの提供は有意義であることが分かった。しかしながら、情報量としては十分と感じながらも、提供している情報の有用性については、多くが十分に役立っていないと感じていることも分かった。つまり、配信する情報

の量的改善ではなく、質的改善が求められている。

また、情報提供の内容として、「教職課程・教務関係情報」についてはすべての回答者においてニーズが高く、提供することの意義は高いことが分かった。イベントに関する内容は、教員採用試験の受験を次年度に控えた学生のニーズが高いことも分かった。このようなことから、多様な情報を利用者のニーズに即して提供していくことが重要なのである。学年別や所属別でのきめ細やかな情報提供の区分・分類をすることが必要であり、また、利用者自身が必要な情報を取捨選択して閲覧・メール配信などができるように配慮する必要がある。ただし、利用者自身による情報の取捨選択の場合、これまでのように学内に設置されている掲示物の確認と同様、個人の自発性に委ねられてしまう。こうした点では情報収集不足による利用者（特に学生）の不利益をできる限り軽減することも検討する必要がある。しかし、岡大教職ナビは新着情報提供ツールとして、従来通りの方法を補完するものであり、学生による自発的情報収集の態度を育成することも重要である。そのためには、学内設置掲示板での確認を積極的に行うよう励行するとともに、大学教員からの情報発信にもより一層力を入れていく必要がある。今回の調査回答では、こうした従来の確認方法があまりに少なく、複数媒体による情報発信体制の確立も重要な課題である。

また、配信方法としては、ダイジェスト版の配信を望む声もあることから、性質として緊急速報性の高い情報と低い情報とを区分し、情報提供の方法を見直していく必要がある。また、自由記述での指摘に、メール配信の時間にも配慮するよう要望があった。授業中などの配信は本来好ましいものではない。こうした意味でも情報の重要性・速報性をしっかりと提供側が認識する必要がある。認証システム同様に現在の NetCommons のシステムでは、カテゴリごとや利用者別の情報提供・配信登録などの機能がない。しかし機能的な問題を課題にするのではなく、限られた機能をフルに活用していかなる情報提供サービスを利用者のニーズに即して実施することができるかを検討していかなければいけない。

V. おわりに

「岡大教職ナビ」は学生への教職情報提供媒体の拡充を目的として開始した。その意義は大きいものの課題は多くあり、特に個々のニーズに応じた情報提

供は、内容や方法などを含めて提供元として再検討していかなければならない大きな課題である。

今回は調査上の課題も多く含んでいる。例えば、先述のとおり、オンライン上での調査のため母集団を正確に特定できていないことから、回答者の属性（学年の別、学生・教職員の別、所属の別等）の数が一定ではない。また、1回答者による2度以上の回答があったかもしれない。その他、設問自体も現状について問う内容ばかりであり、今後の運用について大きな示唆が得られたとは言いがたい。

今後「岡大教職ナビ」サービスの提供について当センター内で十分な協議を行い、可能な限りの対応を実施しながら情報提供を継続して行うとともに、さらなるサービスの改善・向上を目指して調査を実施していきたい。

謝辞

「岡大教職ナビ」における様々な情報提供にあたっては、教師教育開発センター教職員および教育学系事務部教職支援係職員には多大なるご支援とご協力により、拡充・充実することができた。真摯に感謝申し上げるとともに、引き続きのご尽力をお願いしたい。

参考文献・参考 URL

- 佐藤大介, 山根文男, 高塚成信, 加賀勝. (2012). NetCommons を活用した全学教職課程を支えるウェブサイトの構築—岡山大学の教職情報ポータルサイトを目指して—. 岡山大学教師教育開発センター紀要, (2), 162-170
- 岡山大学情報統括センター. (n.d.). 全学情報サービス. <http://www.okayama-u.ac.jp/user/citm/service/index.html>

Information Provision Service about Teacher Profession called “Okadai Kyoshoku Navi.” : Survey Results and Issues

Daisuke SATOH *1, Fumio YAMANE*1, Shigenobu TAKATSUKA*2, Masaru KAGA*1*2

The Center for Teacher Education and Development, Okayama University, began to provide the information provision service about teacher profession called “Okadai Kyoshoku Navi” with NetCommons. Various kinds of information are provided through website or e-mail in this service: information on school affairs, volunteer activities, events, teacher/lecturer recruitments, or teacher employment examinations, and so forth. A questionnaire was conducted to users to improve the quality of service, because one year has passed since the service began. As a result, many users understand the necessity of service, but they don't realize the usefulness of those information. Some reasons are obvious: this service is not enough for each user's requests. Then we have to give users a more proper manual to access the service, and improve how to classify information and how to provide information.

Keywords: information provision service about teacher profession, Okadai Kyoshoku Navi, NetCommons,

*1 Center for Teacher Education and Development, Okayama University

*2 Graduate School of Education, Okayama University
